

実績報告書

2022年 8月 〇〇日

大阪府知事様

届出者住所 大阪府〇〇市〇〇町1-1
〇〇ビル

住所や氏名等が変更になった場合は氏名等変更届出書の提出が必要です

氏名 株式会社〇〇
代表取締役 大阪 太郎
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)

①府内に設置している事業所において使用した燃料並びに熱及び電気の量を原油換算した合計量が1,500キロリットル/年以上の特定事業者

大阪府気候変動対策の推進に関する条例第11条第1項の規定により、次のとおり届け出ます。

特定事業者の主たる業種	9食料品製造業	
該当する特定事業者の要件	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第1号に該当する者
	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第2号に該当する者
	<input checked="" type="checkbox"/>	大阪府気候変動対策の推進に関する条例施行規則第3条第3号イ又はロに該当する者
②連鎖化事業者のうち、当該連鎖化事業者が府内に設置している事業所及び当該加盟者が府内に設置している当該連鎖化事業に係る事業所において使用した燃料並びに熱及び電気の量を原油換算した合計量が1,500キロリットル/年以上の特定事業者		③府内に使用の本拠の位置を有する自動車(軽自動車、特殊自動車及び二輪自動車を除く。)を100台以上使用する特定事業者
	主に食料品の販売及び加工を行っており、大阪府内では1工場と2店舗、1配送センター、及び1支社を所有している。	
事業所の名称及び所在地	別紙のとおり	
温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策の実施状況	別紙のとおり	
温室効果ガスの排出の抑制に関する目標の達成状況	別紙のとおり	

連絡先	部署名	環境推進室環境対策課			
	電話番号	06-〇〇〇〇-〇〇〇〇			
	電子メールアドレス	〇〇@〇〇.co.jp			
※整理番号		※受理年月日	年	月	日

備考1 □のある欄には、該当する□内にレ印を記入してください。

2 ※印のある欄は、記入しないでください。

1 事業所の名称及び所在地

No.	名称	所在地			備考
1	大阪工場	A市	a町1-1	〇〇ビル 1階	延床面積 45,000㎡
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

注:
 このシートは原則、対策計画書と同じになりますが、
 事業所の追加・削除等があれば、記入してください。

以上、主な事業所（燃料並びに熱及び電気を合算したエネルギー使用量が、原油換算燃料等使用量で1,500キログラム/年以上の事業所

11	大阪支社	C市	c町3-3	〇〇ビル 3階	延床面積 1,000㎡
12	大阪南店	D市	d町4-5		延床面積 1,500㎡
13	大阪東店	E市	e町1-3		延床面積 1,300㎡
14	大阪配送センター	F市	f町2-4		延床面積 15,000㎡
15					
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
33					
34					
35					

2 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標の達成状況

(1) 計画期間

2020年	4月	1日	～	2023年	3月	31日	(3年間)
-------	----	----	---	-------	----	-----	-------

(2) 前年度におけるエネルギー総使用量及び温室効果ガス総排出量

区分	基準年度 (2019)年度	前年度 (2021)年度
エネルギー	134,966 G J	134,294 G J
原油換算	3,329 k L	3,312 k L
事業活動	6,998 t-CO ₂	6,949 t-CO ₂
経済的手		
用した温		
ガスの排		
出削減		
国内クレジット		
削減量	0 t-CO ₂	0 t-CO ₂
合計	0 t-CO ₂	0 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量	6,998 t-CO ₂	6,949 t-CO ₂
温室効果ガス総排出量 (平準化補正後)	7,705 t-CO ₂	7,659 t-CO ₂

計画書と同様に、基準年度におけるエネルギー総使用量や温室効果ガス総排出量等を入力してください。

内容 ())))
府域の自社)
備考 事業)
ス排)

報告対象年度(提出年度の前年度)の削減率記載欄には関数が入力されていますので自動計算されます。削減目標及び報告対象年度以前の削減率の値については対策計画書及び届出済みの実績報告書の数値を記載してください。

(3) 温室効果

区分	削減目標 (2021 年度)	第1年度 (2019 年度)	第2年度 (2020 年度)	第3年度 (2021 年度)
選択				
削減率 (排出量ベース)	%	%	%	%
削減率 (原単位ベース)	3 %	1.2 %	3.6 %	%
削減率 (平準化補正ベース)	3 %	1 %	3.5 %	%
吸収				
備				

計画書と同様に区分を選択してください。

は、目標削減率において選択した排出量ベースまたは原単位ベースにより算出すること。

温室効果ガスの排出に係る原単位の設定内容 (目標削減率(原単位ベース)を選択した場合のみ記入)

温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値 ()
基準年度 100 (単位:t) 前年度 103 (単位:t)

(温室効果ガス排出量と密接な関係を持つ値を複数設定した場合の設定方法)

大阪工場では生産量を、大阪工場以外の事業所では延べ床面積をそれぞれ原単位の分母として設定し、それらの重み付け合算により求めた換算生産量を全体の原単位として設定しました。

3 事業活動に係る温室効果ガスの排出及び人工排熱の抑制並びに電気の需要の平準化対策

(1) 温室効果ガスの削減状況についての見解 (毎年度の実施状況を必ず記入してください。)

第1年度に大阪支社のほか全事業所のLEDへの入れ替え工事が完了し、第2年度の基準年度比3.5%削減に寄与した。第3年度は受注が増える見込みであるが、生産効率が向上し原単位での目標は達成見込みである。

毎年度の温室効果ガス排出抑制等のために主に実施した対策の内容を記載してください(特に前年度については具体的に記載してください)。目標以上に削減できている場合や計画どおりに削減が進んでいない場合の要因等についての見解を記入してください。

(2) 推進体制

・全社的に温暖化対策に取り組むため、環境マネジメントシステムを導入しています。
 ・社長を本部長とする地球温暖化対策推進本部を設置し、毎月対策の進捗状況を報告し、現状改善などを検討するとともに、店舗ごとに2ヶ月に一度温暖化防止に関する研修会を実施する等して、本体制を継続していきます。

排出抑制対策の推進組織、環境マネジメントシステムの導入、研修・教育等の実施体制等について記入してください。
 省エネ・省CO2活動推進のための体制を確立できていない場合、「4対策・評価」シートNo.4「推進体制の整備」は「実施済み」を選択できません。

4 重点対策実施率の算定と事業者評価

(1) 事業者情報

事業者名称 株式会社〇〇	業種 9食料品製造業
-----------------	---------------

「2 温室効果ガスの排出の抑制に関する目標の達成状況」の記載が反映されます。

(2) 削減状況と対策実施率

	目標年度	1年度目	2年度目	3年度目	実施率
削減率	3.0 %	1.2 %	3.6 %	%	94.1 %
平準化削減率	3.0 %	1.0 %	3.5 %	%	

原則対策計画書と同様にしてください。
2事業所以上になる場合は、「集計表参照」と記載し、併せて集計表を提出してください。

(3) 重点対策の実施状況 対象事業所 (**大阪工場**)

番号	区分	種類	項目	重点対策名	対策の実施状況		実施年度	備考
					(実施済みの場合)	(実施予定の場合)		
1	GHG排出人工排熱平準化	必須	届出対応、体制の整備	大阪府気候変動対策の推進に関する条例の届出における対応	実施済み	—		
2	GHG排出人工排熱	必須	届出対応、体制の整備	機器管理台帳の整備	実施済み	—		
3	GHG排出人工排熱	必須	届出対応、体制の整備	エネルギー使用量の把握、管理	実施済み	—		
4	GHG排出人工排熱	必須	届出対応、体制の整備	推進体制の整備	実施済み	—		
5	平準化	必須	届出対応、体制の整備	ピークカット、ピークシフト対策の実施	実施済み	計画期間内		発電機を利用したピーク電力の削減を行う予定。
6	GHG排出人工排熱	必須	届出対応、体制の整備	オーナー・テナント対策の実施	非該当	—		テナントを所持していない。
7	GHG排出人工排熱	必須	設備の管理・運用	ボイラーの空気比の適正管理	実施済み	—		空気比が1.25～1.3と、適切な数値で運用している。
8	GHG排出人工排熱	必須	設備の管理・運用	ボイラーの効率管理	実施済み	—		点検記録をもとに、ボイラー群の効率の計算を年4回行い、効率化に努めている。
9	GHG排出人工排熱	必須	設備の管理・運用	ボイラーの圧力・温度の管理	実施済み	計画期間内		月に1回のペースで、圧力・温度等を確認する予定。
10	GHG排出人工排熱	必須	設備の管理・運用	蒸気配管のバルブ等の保温	実施済み	—		蒸気配管において、断熱を行っている。
11	GHG排出人工排熱	必須	設備の管理・運用	熱源設備における空気比の適正管理	実施済み	—		空気比が1.25～1.3と、適切な数値で運用している。
12	GHG排出人工排熱	必須	設備の管理・運用	熱源設備の効率管理	実施済み	—		熱源設備の効率を年2～3回程度確認している。
13	GHG排出人工排熱平準化	必須	設備の管理・運用	熱源設備の冷水出口温度管理	実施済み	—		冷房期間には、低負荷時の冷水温度の値が真夏の値より高く設定、暖房期間には、低負荷時の温水温度が真冬の値より低く設定している。
14	GHG排出人工排熱平準化	必須	設備の管理・運用	空調機の室内温度の適正管理	実施済み	—		室内温度が、夏季：26℃、冬季20℃になるよう、空調機を稼働。
15	GHG排出人工排熱平準化	必須	設備の管理・運用	空調機の外気導入量の適正管理	非該当	—		「建築物における衛生的環境の確保に関する法律」に該当しない施設のため。
16	GHG排出人工排熱平準化	必須	設備の管理・運用	空調機のフィルターの定期的な清掃	実施済み	—		管理標準により、月1回清掃を実施している。
17	GHG排出人工排熱平準化	必須	設備の管理・運用	温度検出器の適正管理	実施済み	—		検出器は適切に配置しています。
18	GHG排出人工排熱平準化	必須	設備の管理・運用	照明の運用管理	実施済み	—		管理標準により、消灯時間帯・照度の目標値を設定している。

全ての項目の実施状況を必ず記入してください。

重点対策の実施状況は「集計表参照」を参照してください。
●「予定なし」「非該当」の場合は理由を必ず記入してください。「実施済み」「実施予定」の場合は対策内容を記入してください。

19	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	ポンプの流量管理 の評価	予定なし	—	該当するポンプの数が多いので、計画期間中に 全台実施するのは難しい。
20	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	ファン、ブロワの 風量管理の評価	実施済み	—	風量の管理方法を設定しており、管理標準で定 めた方法で運用している。
21	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	地下駐車場の換気 管理	非該当	—	地下駐車場が無いため。
22	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	給湯設備の適正管 理	実施済み	—	貯湯温度を75℃に設定しており、省エネモード 時間を設定している。
23	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	コージェネレー ションの効率管理	非該当	—	コージェネレーションシステムを保有していな い。
24	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	コンプレッサの吐 出圧の適正化	実施済み	—	コンプレッサの吐出圧と使用設備の圧力差が 0.05MPaと、適切に管理しています。
25	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	コンプレッサの吸 気温度管理	予定なし	—	コンプレッサ室の構造上、計画期間での実施 は難しい。
26	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	設備の管 理・運用	圧縮空気配管図の 整備	実施済み	—	配管図により工場内の圧縮空気の配管を把握し ている。
27	GHG排出 人工排熱	必須	自動車の管 理・運用	エコドライブの励 行	実施予定	計画期間内	職員研修を実施予定。
28	GHG排出 人工排熱	必須	自動車の管 理・運用	自動車の適正な維 持管理	実施済み	—	点検・整備マニュアルを用いて、自動車運転者 に適切な維持管理を周知している。
29	GHG排出 人工排熱	必須	自動車の管 理・運用	自動車の燃料使用 量の把握	実施済み	—	燃料使用量及び走行距離を車両別に定期的に把 握している。
30	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器 等の導入	高効率な照明設備 の導入	実施済み	—	工場内照明はすべてLED化している。
31	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器 等の導入	高効率な高輝度放 電ランプ等の導入	実施済み	—	対象となる水銀灯について、全て高効率放電ラ ンプに交換している。
32	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器 等の導入	高効率機器の導入	実施済み	—	ターボ式冷凍機の導入により、50t-CO2/年を削 減。
33	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器 等の導入	エネルギー管理シ ステムの導入	実施済み	—	エネルギー管理システムを導入している。
34	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	省エネ機器 等の導入	太陽光発電の導入	非該当	—	屋上には空調の室外機等を設置しており、太陽 光発電を設置するスペースを確保できないた め。
35	GHG排出 人工排熱	必須	省エネ機器 等の導入	エコカーの導入	実施済み	—	電気自動車1台、ハイブリッド自動車1台を導入 済み。また、2019年度にハイブリッド自動車を 1台導入予定。
36	GHG排出	必須	府が推進す る温室効果 ガス排出抑 制	カーボン・オフ セットの実施	非該当	—	温室効果ガスの削減は順調に進んでおり、計画 の最終年度に3%の削減を達成できる見込みで あるため。
37	GHG排出 人工排熱 平準化	必須	府が推進す る温室効果 ガス排出抑 制	省エネ診断の実施	実施済み	—	2016年3月に省エネ診断を受診し、「蒸気配管 の保温」を提案されたのを受け、2016年9月に 断熱材をまくことで、対応した。
38	GHG排出	必須	府が推進す る温室効果 ガス排出抑 制	環境配慮製品の開 発・製造	非該当	—	製品の開発・製造部門を有していない。
39	人工排熱	必須	府が推進す る温室効果 ガス排出抑 制	ヒートアイランド 対策の実施	実施予定	計画期間内	外壁面の緑化を行う予定。
40	GHG排出 人工排熱	選択	その他の項 目	計画期間外の温室 効果ガスの大幅な 削減	該当		2014～2016年度の計画期間において、2013年度 比で10.8%（排出量ベース）の削減を達成でき た。
41	GHG排出	選択	その他の項 目	事業者独自の取組 み	実施済み	—	公共交通機関の積極的な利用、自転車の活用。

実施数(実施予定等含む)	32
該当項目数	34

5 前年度のエネルギー使用量及び温室効果ガス排出量

(1) 主な事業所分

①事業所の名称及び所在地

No.	名称	所在地	
1	大阪工場	A市	a町1-1

②前年度におけるエネルギー使用量

エネルギーの種類	単位	(2021)年度				
		エネルギー使用量(A)		販売エネルギー量(B)		(A)-(B)
		数値	熱量 (GJ)	数値	熱量 (GJ)	熱量 (GJ)
原油 (コンデンセートを除く)	k L					0
コンデンセート	k L	98		98		0
ガソリン	k L					0
灯油	k L					0
軽油	k L	98	3,695			3,695
A重油	k L					0
LPG	t					0
LNG	t					0
都市ガス	千m ³					0
産業用蒸気	GJ					0
蒸気 (産業用蒸気以外)	GJ	1,040	1,414			1,414
温水	GJ					0
冷水	GJ					0
その他 (**)	-					0
その他 (**)	-					0
その他 (**)	-					0
その他 (**)	-					0
その他 (**)	-					0
その他 (**)	-					0
小計 (GJ)			5,109			5,109
電気事業者	昼間買電	千kWh	5,550	55,334		55,334
	(平準化時間買電)	千kWh	2,900	28,913		28,913
	夜間買電	千kWh	3,000	27,840		27,840
その他	上記以外の買電 (**)	千kWh				0
	(**)	千kWh				0
	(**)	千kWh				0
	自家発電	千kWh				0
小計 (GJ)			83,174			83,174
合計 (GJ)			88,283			88,283
原油換算 (k L)			2,277			2,277

98kLの場合、「98」を記入してください。
98kL × 37.7GJ/kL (単位発熱量) = 3,695GJが自動計算されます。

電力の自由化に伴い、電力事業者の数が増えましたので、電力の買電量(昼間、夜間、平準化時間)は、「5-2電力入力用(主な事業所)」シートに入力してください。入力すると、こちらのセルに反映されます。

〈プルダウン選択〉
温暖化対策指針別表第2に示す小売電気事業者以外の発電事業者で、登録特定送配電事業者等から電気を購入した場合に選択してください。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。独自の根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。なおその場合、変更欄に「レ」が入りますので、その値を採用した根拠を

変更	単位発熱量	変更	CO ₂ 排出係数	CO ₂ 排出量
	38.2		0.0686	0.00
	35.3		0.0675	0.00
	34.6		0.0671	0.00
	36.7		0.0678	0.00
	37.7		0.0686	253.45
	39.1		0.0693	0.00
	50.8		0.059	0.00
	54.6		0.0495	0.00
	45.0		0.0509	0.00
	1.02		0.06	0.00
	1.36		0.057	59.28
	1.36		0.057	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	9.97		0.499	2767.75
	9.97		0.498	
	9.28		0.509	1527.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	0		0	0.00
	9.76			0.00

注: 計画期間中は、対策計画書と同じ単位発熱量、CO₂排出係数を用いてください。

③前年度における温室効果ガス排出量

区分	(2021)年度
エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	4,608 t-CO ₂
その他 (メタン) の排出量	150 t-CO ₂
合計	4,758 t-CO ₂

上記以外の二酸化炭素、及びメタン、一酸化二窒素、ハイドロフルオロカーボン、パーフルオロカーボン、六ふっ化窒素、三ふっ化窒素について、排出量が多い場合に入力してください。また計算過程の根拠資料を併せて提出してください。

電力量入力(主な事業所)

事業所名	電気事業者		買電量(千kWh)	うち平準化時間帯買電量(千kWh)	合計買電量(千kWh)	単位発熱量(GJ/千kWh)	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /千kWh)	熱量(GJ)	うち平準化時間帯熱量(GJ)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	うち平準化時間帯CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	合計CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	
1 大阪工場	001関西電力株式会社から供給された電気	昼間	5,000	2,600	8,000	9.97	0.509	49,850	25,922	2,545	1,323	4,072	
		夜間	3,000	—		9.28		—	1,527	—			
	066株式会社エネットから供給された電気	昼間	550	300	550	9.97	0.405	5,484	2,991	223	122	223	
		夜間	0	—		9.28		—	0	—			
	**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0	
		夜間	0	—		9.28		—	0	—			
	合計	昼間	5,550	2,900	8,550	—	—	55,334	28,913	2,768 (排出係数) 0.499	1,445 (排出係数) 0.498	4,295	
		夜間	3,000	—		27,840		—	1,527 (排出係数) 0.509	—	(排出係数) 0.502		
	**		昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
			夜間	—	—		9.28		—	0	—		
**		昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0	
		夜間	—	—		9.28		—	0	—			
**		昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0	
		夜間	—	—		9.28		—	0	—			
**		昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0	
		夜間	—	—		9.28		—	0	—			
**		昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0	
		夜間	—	—		9.28		—	0	—			
合計	昼間	0	0	0	—	—	0	0	0 (排出係数) 0.000	0 (排出係数) 0.000	0		
	夜間	0	—		0		—	0	—	(排出係数) 0.000		(排出係数) 0.000	

電気事業者を選択してください。

電気事業者ごとの昼間買電量、平準化時間帯買電量、夜間買電量を記載してください。

<平準化時間帯買電量>
夏季(7~9月)及び冬季(12~3月)の8~22時における買電量を記載してください。

電気事業者ごとの「買電量」及び「うち平準化時間帯買電量」を入力すると自動計算されます。

電力量入力(その他事業所)

その他事業所が複数ある場合は、内訳表(添付資料)の提出が別途必要です。

電気事業者		買電量(千kWh)	うち平準化時間帯買電量(千kWh)	合計買電量(千kWh)	単位発熱量(GJ/千kWh)	CO ₂ 排出係数(t-CO ₂ /千kWh)	熱量(GJ)	うち平準化時間帯熱量(GJ)	CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	うち平準化時間帯CO ₂ 排出量(t-CO ₂)	合計CO ₂ 排出量(t-CO ₂)
001関西電力株式会社から供給された電気	昼間	1,950	1,250	1,950	9.97	0.509	19,442	12,463	993	636	993
	夜間	0	—		9.28		0	—	0	—	
072株式会社F—Powerから供給された電気	昼間	1,080	600	1,320	9.97	0.476	10,768	5,982	514	286	628
	夜間	240	—		9.28		2,227	—	114	—	
133株式会社G—Powerから供給された電気	昼間	450	270	450	9.97	0	4,487	2,692	0	0	0
	夜間	0	—		9.28		0	—	0	—	
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0	0
**	昼間	0	—	0	9.97	0	0	0	0	0	0
**	夜間	0	—	0	9.28	0	0	0	0	0	0
合計	昼間	3,480	2,120	3,720	—	—	34,696	21,136	1,507 (排出係数) 0.433	922 (排出係数) 0.435	1,621
	夜間	240	—		2,227		—	114 (排出係数) 0.476	—	— (排出係数) 0.436	

電気事業者を選択してください。

電気事業者ごとの昼間買電量、平準化時間帯買電量、夜間買電量を記載してください。

<平準化時間帯買電量>
夏季(7~9月)及び冬季(12~3月)の8~22時における買電量を記載してください。

電気事業者ごとの「買電量」及び「うち平準化時間帯買電量」を入力すると自動計算されます。

(3) 事業者で使用
①前年度におけるコ

自動車を使用しており、事業所が複数ある場合は集計表を提出してください。
規則の3条1号及び2号に該当する場合は社用車全てを記入してください。

単位発熱量、CO₂排出係数は対策指針で示した値が入力されています。
独自の根拠により数値を変更するときは、直接数値を変更入力してください。
なおその場合、変更欄に「レ」が入りますので、その値を採用した根拠を

エネルギーの種類	単位	エネルギー使用量		台数 (台)	
		数値	熱量 (GJ)	総台数	うち、軽自動車を除く台数
ガソリン	kL	55	1,903	42	38
E3ガソリン	kL		0		
バイオガソリン			0		
軽油	kL	105	3,959	65	65
LPG	t		0		
都市ガス	千m ³		0		
その他 ()			0		
その他 ()			0		
その他 ()			0		
合計 (GJ)					

55kLの場合、“55”を記入してください。

天然ガス車が該当します。

2019年度の3月末時点の台数を記入してください。

注: 計画期間中は、対策計画書と同じ単位発熱量、CO₂排出係数を用いてください。

変更	単位発熱量
	34.6
	34.6
	34.6
	37.7
	50.8
	45.0

変更	CO ₂ 排出係数
	0.0671
	0.0654
	0.0668
	0.0686
	0.059
	0.0509

CO ₂ 排出量
127.69
0.00
0.00
271.55
0.00
0.00
0.00
0.00
0.00
399.24

数値把握の方法

- レ 燃料法 (直接、燃料使用量を把握する方法) によるもの
- 燃費法 (車両の燃費と走行距離により燃料使用量を把握する方法) によるもの
- その他の方法 ()

※燃費法を選択した場合

※その他の方法
トンキロ法(車種ごとに輸送重量、輸送距離、燃料使用量といった実測データ等をもとに輸送トンキロ当たりの燃料使用量(原単位)を求めておき、その原単位をもとに年間の輸送トンキロから燃料使用量を把握する方法)などがあります。

②前年		年度
エネルギーの使用によって発生する二酸化炭素の排出量	399	t-CO ₂